

研 究 分 野	資源生態	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研 究 事 業 名	資源評価調査委託事業(スルメイカ漁場一斉調査)		
予 算 区 分	委託研究((独)水産総合研究センター)		
研 究 実 施 期 間	H17～H21		
担 当 者	大水 理晴		
協 力 ・ 分 担 関 係	北海道区水産研究所ほか 4 機関		

〈目的〉

我が国の太平洋海域におけるいか類資源の合理的かつ永続的な利用並びにいか類漁業の操業の効率化と経営の安定化に寄与するために、スルメイカの資源評価並びに漁況予測に必要な分布・回遊・成長・成熟及び海洋環境などに関する資料を収集することを目的とする。

〈試験研究方法〉

1 漁場一斉調査

本県太平洋海域の31調査点で、水産庁の資源評価調査委託事業の一環として、他県試験船等と共に、試験船開運丸で、イカ釣獲試験(1調査地点で2～3時間)と海洋観測(水温と塩分)を行った。釣獲したイカについては生物測定を行った。

2 漁獲量調査

八戸港、白糖漁港、大畑漁港へ水揚げされた生鮮スルメイカの漁獲量を取りまとめた。

〈結果の概要・要約〉

開運丸による1次調査及び2次調査におけるスルメイカ漁獲尾数、CPUE(尾/台/時間)、外套背長の組成を図1、図2及び図3に示した。

1次調査における各操業点でのスルメイカ漁獲尾数は0～10尾、CPUEは0～0.9(尾/台/時間)であった。また、漁獲されたスルメイカの外套背長は11～30cmであり、モードは見られなかった。

2次調査における各操業点でのスルメイカ漁獲尾数は0～161尾、CPUEは0～16.1(尾/台/時間)であった。また、漁獲されたスルメイカの外套背長は15～26cmであり、モードは22cmであった。

〈今後の問題点〉

- ・スルメイカの分布と海洋環境との関連性について解析を進める。

〈次年度の具体的計画〉

- ・本年も同様に実施する

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・試験船開運丸による調査・操業結果について、随時、八戸漁業用無線局を通じて中型いか釣り船へ情報提供すると共にウオダス(漁海況情報)に掲載した。
- ・生鮮スルメイカの漁獲量、イカ釣獲試験及び海洋観測の結果、スルメイカ生物測定のデータを北海道区水産研究所へ報告した。
- ・これらの調査結果を基に北海道区水産研究所が、6月と8月に「スルメイカ長期漁況予報」を発表している。

〈主要成果の具体的なデータ〉

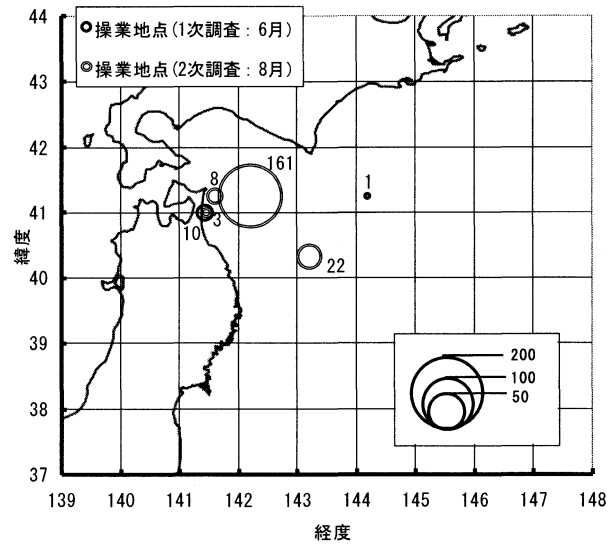


図1 1次調査と2次調査におけるスルメイカ漁獲尾数

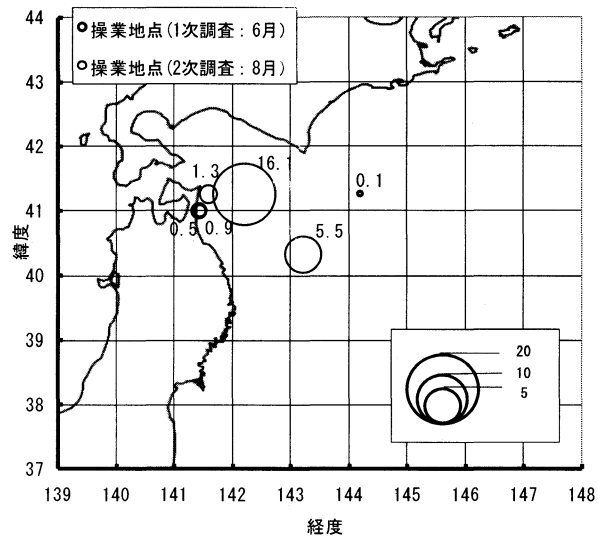


図2 1次調査と2次調査におけるスルメイカのCPUE(尾/台/時間)

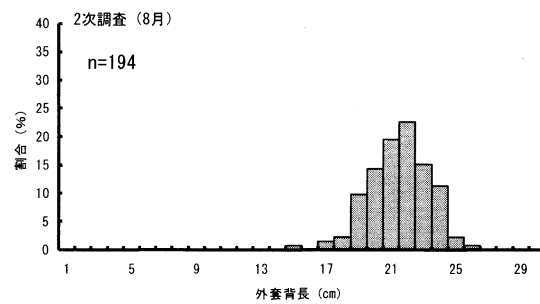


図3 2次調査におけるスルメイカ外套背長組成